

けいはんな学研都市で

^{ミライ}先を一緒に創りましょう。



京都府



けいはんな
学研都市

2024.11.21 京都府商工労働観光部 文化学術研究都市推進課

関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）

- 京都、大阪、奈良にまたがる京阪奈丘陵に立地する、東の「つくば研究学園都市」とともに国家的プロジェクトに
- 位置付けられるサイエンスシティ
- 元京大総長の奥田東氏の「地球規模の課題・危機を日本の力で解決したい」思いから、文化と科学の力による新しい地球文明の創出とその拠点となる都市を創造するという提言からスタート
- 大阪・関西万博のレガシーを継承する「ポスト万博シティ」

オープンイノベーションの実践フィールド
スマートシティの先進地

OMRON

KYOCERA

SHIMADZU

Nidec

ATR

IAS

NICT

QST

RITE
Research Institute of Innovative
Technology for the Earth

Institute of Science and Technology
NAIST

KYOTO UNIVERSITY
FOUNDED 1897



数字で見るけいはんな学研都市



研究発表数

3,804件

2022年度実績

22年度文化・学術・科学
イベント参加者数

93,918人

イベント開催数:103件

就業者(研究者)数・
学生数

30,287人

就業者(研究者)11,342人+学生18,945人

2023年4月1日現在

特許登録件数

621件

2015年度
登録数の
約1.9倍

2022年度実績

実証実験件数

617件

2016年度から7年間の累計

立地施設数

157施設

2023年度末現在

国内外スタートアップ支援

951機関

国内573機関(24都府県)+国外378機関(34カ国)

2023年9月現在

住民サポーター組織
登録者数

3,000人超

自主登録制コミュニティ「Clubけいはんな」

R&Dコンソーシアム

126会員

企業、連携機関、大学など

2024年3月現在

多様な
分野で際立った
研究開発
の成果

IPS細胞



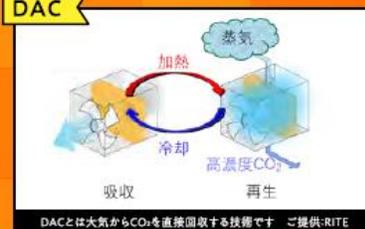
ご提供:理化学研究所バイオリソース研究センター

AI多言語同時翻訳



無料
アプリ

DAC



対話型アンドロイド



©ATR/ムーンショット型研究開発事業アバター共生社会プロジェクト

立地研究機関・企業

大阪・関西万博で登場

国際電気通信基礎技術研究所(ATR)



アンドロイドの開発・研究

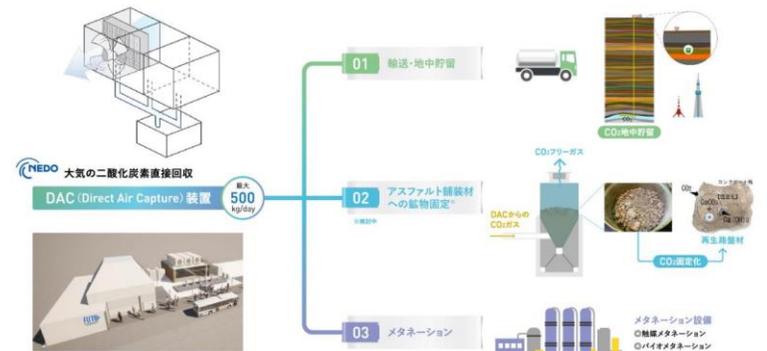


情報通信研究機構(NICT) ユニバーサルコミュニケーション研究所



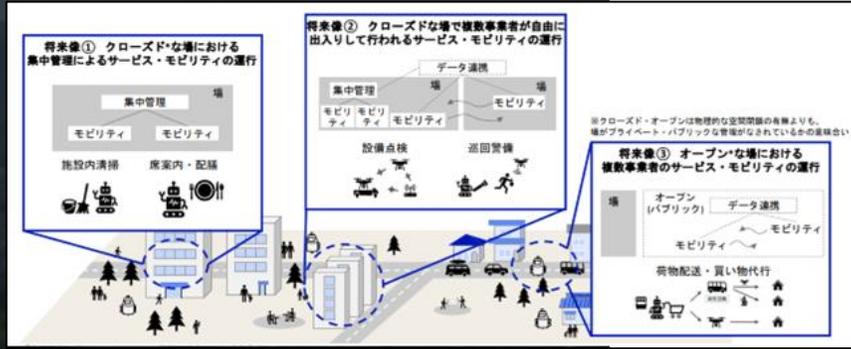
多言語翻訳技術

地球環境産業技術研究機構 (RITE)



大気中のCO₂ 回収・分離・活用

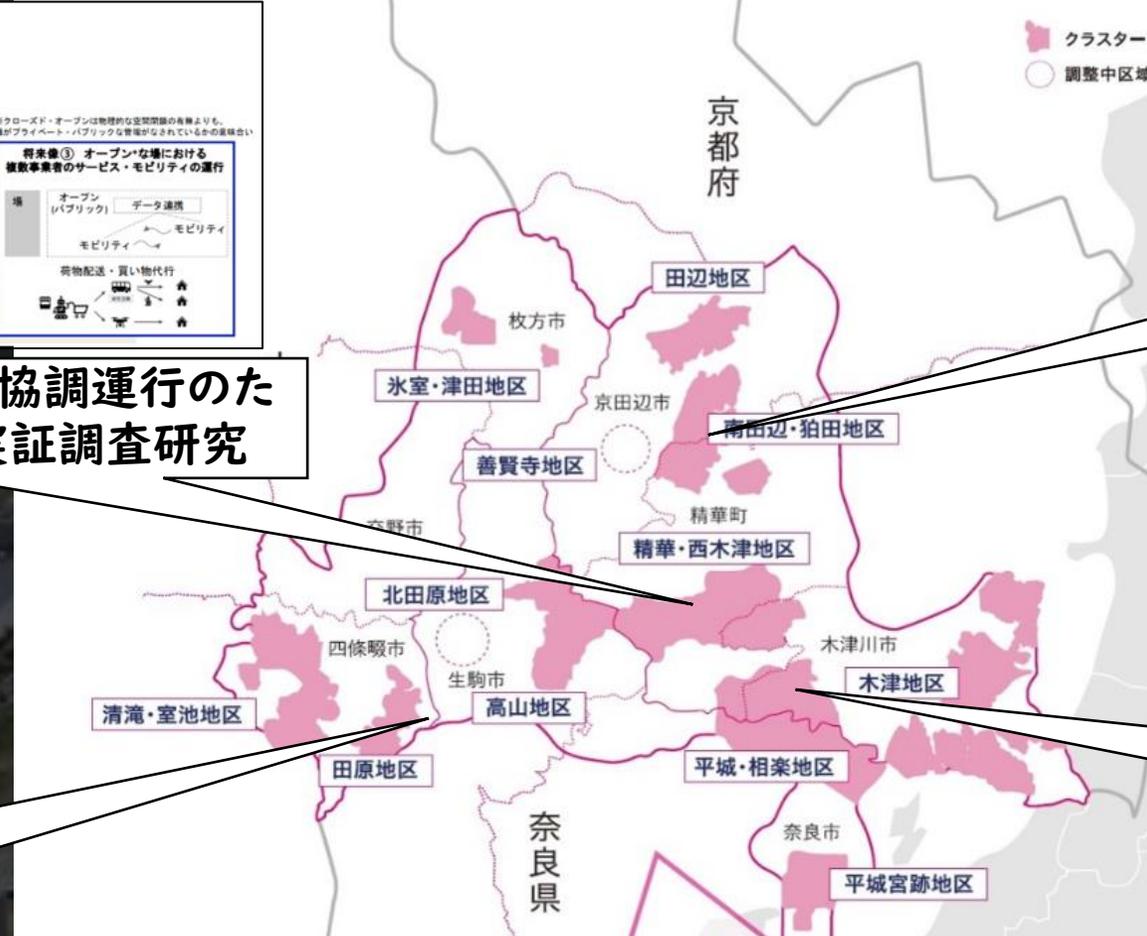
次世代モビリティを基軸にした地域DX



自動運転・ロボットの分散協調運行のための基盤構築に関する実証調査研究



人口減少地域での自動運転グリーンスローモビリティ基軸のDX



自動運転EVバスによる収益性の向上



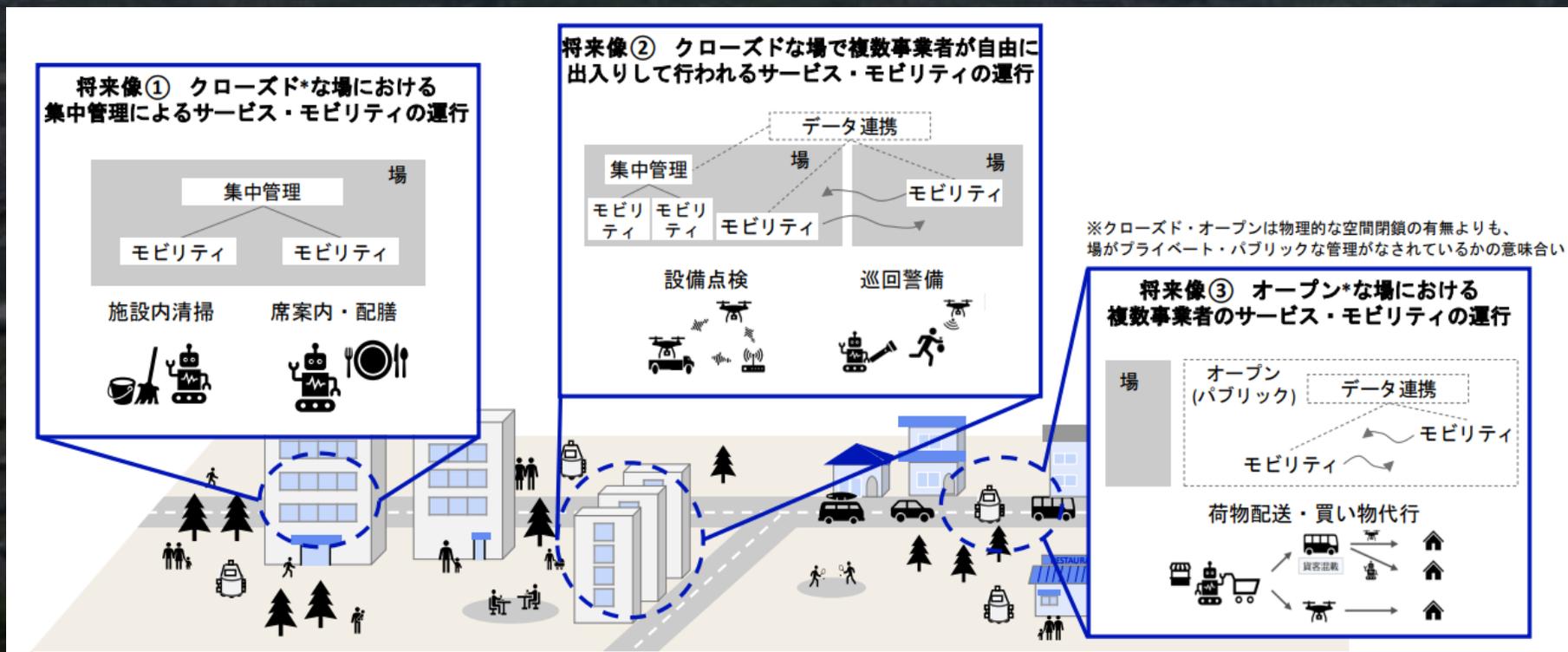
オンデマンド交通による持続可能な地域交通



次世代モビリティの実証・実装を通じて地域DXに必要な技術の生活圏での連携、共通化も目指す

複数モビリティの分散協調運行のための基盤構築に関する実証調査研究

屋内や屋外空間において、自動走行車両、ロボット、ドローンなどを地域の旅客・貨物需要などに合わせて自由に組み合わせる時代に向けて、異なる事業者が提供する車両やロボット、ドローンの中で、空間情報の共有、協調制御（分散協調）の実装に向けた運行管理・事業体制を検討し、アーキテクチャ及びガイドラインを作成する実証事業



住民の移動、生活サービス、物流サービス、セキュリティ、災害時、フードテックなど様々なユースケースを想定し、今後の都市開発と合わせて展開

けいはんな万博の開催



KEIHANNA
EXPO2025

けいはんな万博2025！ 2025年4月より始動！

描くのは「未来」

最新技術を用いて

CONCEPT
開催趣旨

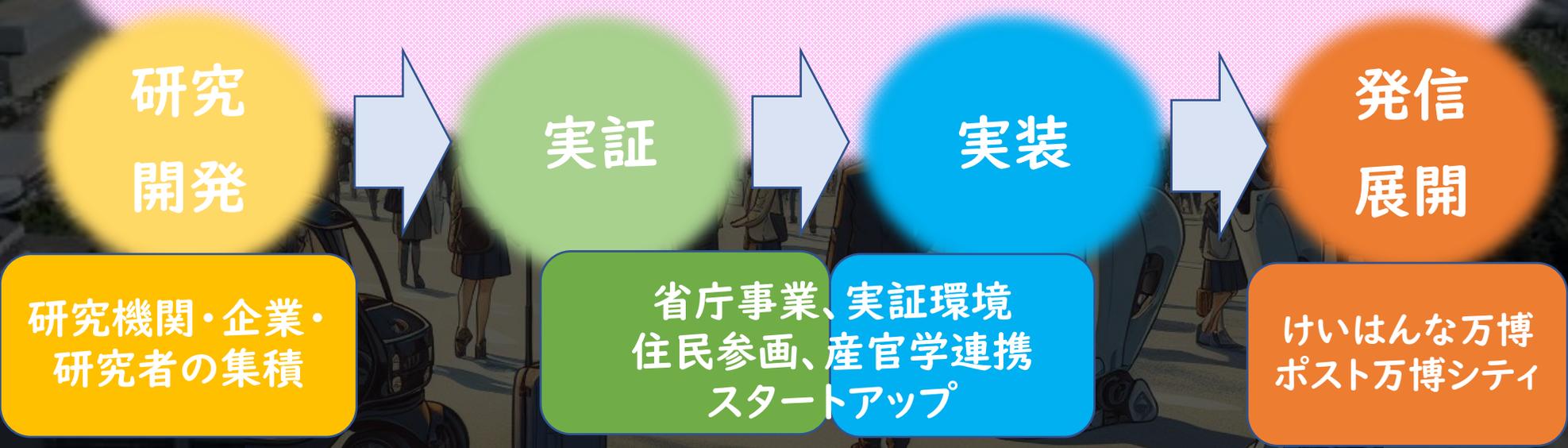
未来社会への貢献「次世代への解」

世界の知と産業への「解」 / 持続的イノベーションへの「解」 / 科学・生活・文化・自然環境の調和への「解」
求められる様々な「解」を導き出し、指し示すべく、けいはんな万博の象徴となる4大テーマ[®]を中心に、
次世代の担い手たる子どもたちに伝えるために、日常的に数多の催事を展開し、触れることのできる場を提供します。

けいはんな学研都市が目指す未来社会の実現

けいはんな学研都市の蓄積を集約し、「研究・開発」「実証・実装」「発信・展開」までを一気通貫でできる学研都市にステージアップ、未来社会の実現を目指す

産・官・学・民 連携



企業様と実現したいこと

IoT・AIをはじめ、最新技術の導入、住民様向けのサービス、投資・展開ができる企業の皆様との連携により、「けいはんな未来社会モデル」を確立し、国内外にまで展開を目指す

国外

けいはんな万博・ポスト万博シティ

国内

大阪・奈良、スマートシティエキスポ

京都府内

新名神延伸エリア、京都市内、フードテックヒ

フードテック

スマートシティ

住民サービス

「けいはんな未来社会モデル」

自動運転

ロボット

けいはんな学研都市で

ミライ
先を一緒に創りましょう

連絡先 京都府 商工労働観光部
文化学術研究都市推進課

担当：高柳 TEL：075-414-5194

email:bunkaga@pref.kyoto.lg.jp

<都市建設の契機となった 奥田 東 氏の思いと提言>

「けいはんな学研都市」は、
一人の科学者の、
「地球的規模の課題・危機を
日本の力で解決したい」という
熱い思いから始まりました。
オイルショック等による社会経済の
転換期を迎えていた1978年、
元京都大学総長の奥田東氏は、
錚々たる科学者たちと共に、
文化と科学の力による
新しい地球文明の創出と
その拠点となる都市の建設を
提言しました。

西欧文明の成果と
自らの東洋文化を統合することで
めざましい社会経済の発展を
遂げた日本は
科学立国と文化立国を国是として
新しい地球文明創出のために
積極的な役割をになおうとしている。
この目的を果たすために
関西文化学術研究都市は誕生した。